

# 広報 伊方町

発行所 伊方町 愛媛県西宇和郡伊方町湊浦 796-03 伊方局38-0211  
 編集 務課 豊豫社 八幡浜市松柏 22-0144

## 今月の紙面

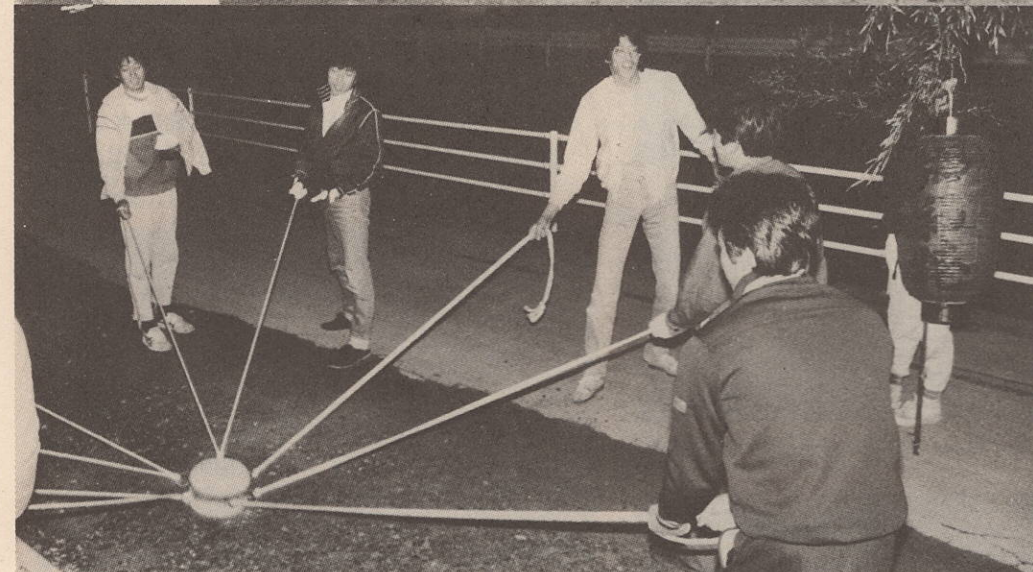
二面……'85年10大ニュース 国勢調査結果まとまる  
 三面……灘地区畑かん事業の一部完成 町の行政改革大綱決まる 民話と伝説・健康の窓  
 四面……町の奨学資金受け付け開始 広報縮刷版を発行

### ふるさと再発見

## 亥の子唄もにぎやかに

旧暦十月の亥の日、今年十一月二十日(こ)の日に当たり、町内のあちこちから亥の子唄が聞かれました。主に子供の行事。河内や湊浦などでは青年が参加する風習が残っています。

今年の初亥は十一月二十日 石を持って、家々について回り始めました。この日、日の入りごろになると子供たちが亥の子唄を歌いながら、石を持って、家々について回り始めました。この日、日の入りごろになると子供たちが亥の子唄を歌いながら、石を持って、家々について回り始めました。



〔写真上〕亥の子唄に合わせ庭先を威勢よくつく湊浦の子供たち。〔写真下〕湊浦青年団

この日の名簿には今年結婚した家庭の名がビッシリ。一軒一軒回り、玄関前で地面を叩いていきました。この日の名簿には今年結婚した家庭の名がビッシリ。一軒一軒回り、玄関前で地面を叩いていきました。

青年団が参加するところもありました。湊浦では毎年、青年団行事の一つとして続いています。午後五時すぎになると青年団員が公民館に集まってきて、亥の子石や笹を準備。一時間あまりで準備が終わると、集まった八人あまりが勇んで出かけていきました。

### 旧暦の10月

旧暦十月の「亥」の日の行事。主に西日本で収穫の祭りとして行われている。一年を十二支にあて、十月が亥の月となるので、亥の月の亥の日を祝いの日とするようになったといわれている。

勢いよくついでにきました。最初は控えめだった青年たちも、胸を受けることに威勢がよくなり、おもしろおかしい歌詞がポンポン飛び出し新婚家庭の庭先はたいへんにぎやかでした。こうした青年団の参加も、昔は町内の他の地区でも盛んに行われていたようですが、今では河内と湊浦だけになりました。

## 年末年始の役場業務

十二月二十九日から一月三日までの六日間は、年末年始につき役場業務は休みです。ただし、ゴミ収集業務は十二月三十日まで、戸籍の一部受付などは次の要領で行います。

### 急病のとき

急病のときは、まず、係つけの医師にご相談ください。町内の九町及び加周診療所は十二月二十八日の午後から一月三日まで休診。四日は午前中の診療、五日は日曜日のため休診、六日から平常どおりです。

### 水道の故障

家庭内やメーター周辺の故障は個人の管理範囲です。左記の公認業者に連絡をして修理を受けてください。幹線の故障、断水の場合は役場への連絡をお願いします。

### 戸籍の届出

住民票や印鑑証明書の交付などの戸籍業務は休みですが、死亡届と出生届は休日直者が受け付けます。役場または町見支所へ申し出てください。

### ゴミの収集

年末のゴミ収集は十二月三十日(月)まで、三十一日から一月三日までは休みですので、出さないようにご協力ください。

### 町公認公認業者名簿

大通英機	湊浦	38-0106
大富太郎	小中浦	38-0568
福田稔	川永田	38-0928
松田君雄	豊之浦	38-1250
城岡正治	奥	39-0162
渡辺啓	奥	39-1166
井田充繁	畑	39-0500
山岡正昭	田之浦	39-0235
古田臣衛	田之浦	39-0672
河野二	河内	38-2110

町民会館で開かれた町制施行30周年記念式典



今年も早や十二月。一年の締めくくりに当たり、広報関係者五十一人にアンケート調査を行い、町の十大ニュースと題して順位をつけてみました。

トップは九割以上が一位に上げた町制施行三十年。二位は伊方シンポジウムの開催、三位は第二次公開ヒアリングでした。

四位からは差がほとんどなく右記のような順位となりました。以下、十一位に高門県議が日園連会長・山本長松氏県人事委員長・小川一雄氏県保健環境部長に就任。十二位に三号機の準備工事始まる。十三位干ばつで柑橘類に被害。十四位町見農協でトマトの水気耕栽培始まるなどが続きました。

いろんなことが...

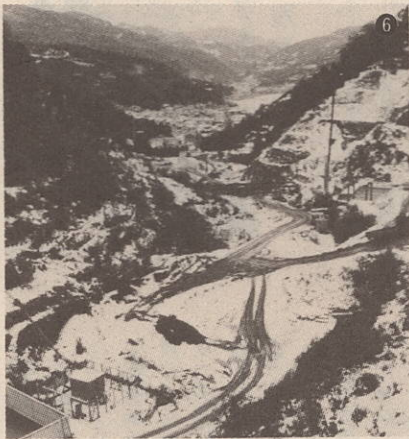
- ①町制施行30周年を祝う  
昭和30年3月31日に伊方村と町見村が合併して誕生した伊方町。今年で町制施行30周年を迎え、3月から7月にかけて記念式典や記念行事が盛大に行われました。
- ②伊方シンポジウム'85を開催  
ニューメディアで未来をひらく——をテーマに、伊方シンポジウム'85が6月22日に開催されました。主会場の町民会館大ホールには町内外から約600人が参加。3つの分科会に分かれ、明日の郷土づくりが話し合われました。
- ③伊方3号機に係る第2次公開ヒアリングが開催された  
10月4日に町見体育館で、伊方3号機に係る第2次公開ヒアリングが開催されました。当日は16人が陳述し、250人あまりが傍聴しました。心配された反対行動も理解が得られ、混雑もなく終了しました。
- ④灘地区畑かん事業の一部完成  
2年前の58年10月に着工した県営灘地区畑かんがい事業。その一部、大浜第7ブロックの工事が10月21日に完成しました。面積19.1haで79戸の関係農家では、今冬の病虫害防除(マシン油乳剤散布)から活用することになっています。
- ⑤3号機に係る安全協定調印  
4月19日県庁で、県・町・四国電力の三者による伊方発電所3号機に係る安全協定が調印されました。今回の協定内容は、前の1・2号機分を改訂したもので、さらに厳しい内容となりました。
- ⑥南予用水川永田調整池着工  
農林省が進めている南予用水事業の伊方調整池の工事が5月に始まりました。この調整池は、本町以西の半島部3町に農業用水などを安定供給するためのもので、貯水量約90,000t。完成は63年3月の予定です。
- ⑦90年以上続いた三崎航路が運休  
三崎半島と八幡浜市を結ぶ海の交通機関として親しまれて来た定期航路が、9月末で運休となりました。本町では九町と加周に寄港していましたが、利用客の減少などにより90年あまりの歴史に幕を閉じました。
- ⑧指定金融機関業務始まる  
7月から町の指定金融機関制度による業務が開始され、町税や水道料金などの支払いが口座振替できるようになりました。この制度を利用すると役場や町見支所へ出向く手間が省け、納め忘れもなくなります。
- ⑨国勢調査が実施され、前回より300人以上減る  
10月1日国勢調査が実施され、本町は前回(55年)より339人減りました。今回の調査による本町の人口は8,163人。以前より減少率は鈍くなっているものの減少傾向が続いています。
- ⑩伊予灘で赤潮発生、魚貝類大量死  
7月中旬、長浜町から本町にかけての伊予灘で魚貝類が大量死しているのが見つかりました。京都大学のグループなどが調査した結果、直接原因は赤潮の発生によるものと発表されました。

# 町の10大ニュース

## 町制施行30周年、次いでシンポジウム



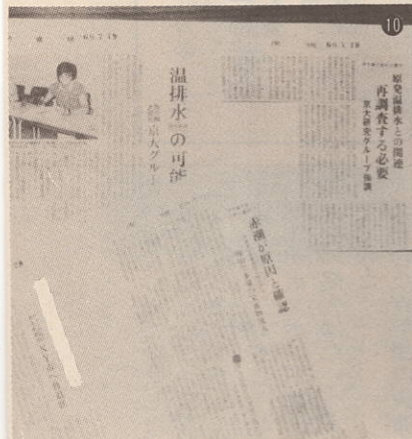
県庁で行われた安全協定の調印式



工事が進む南予用水川永田調整池



数々の思い出を秘め姿を消した三崎航路



赤潮発生が原因、と伝える新聞記事



国勢調査で300人以上減る



7月1日から始まった指定金融機関業務

十月一日に行われた国勢調査の結果がまとまり、十一月十九日に発表がありました。これをみますと、本町の人口は八千六百三十三人。前回より三百三十九人減りました。

内訳は男子が三千九百二十三人で百八十八人の減、女性は四千二百四十人で百五十七人の減となっています。

本町の国勢調査人口は、昭和二十五年の一萬三千三百五十二人(町村合併前で伊方村と町見村を合計)を最高に、四十五年調査まで毎回一千人前後減少。五十年に二百人あまり増加したものの、五十五年以降はまた、少しずつ減少しています。

また、調査時点の十月一日現在の住民基本台帳人口(町内に住民登録している人)と比べてみますと、国勢調査人口の方が四百六十九人少なくなっています。

郡内の状況でも保内町が八十九人増えただけで、あとは三崎町の六百十三人を筆頭に三

本町の国勢調査人口と世帯数推移

調査年次	人口			世帯数
	総数	男	女	
昭和30年	12,711人	6,219人	6,492人	2,639戸
昭和35年	11,323人	5,407人	5,916人	2,587戸
昭和40年	9,924人	4,691人	5,233人	2,508戸
昭和45年	8,736人	4,025人	4,711人	2,388戸
昭和50年	8,965人	4,406人	4,559人	2,462戸
昭和55年	8,502人	4,105人	4,397人	2,728戸
昭和60年	8,163人	3,923人	4,240人	2,642戸

- 一等：増田道正 (伊小二年)
- 二等：舛田和樹 (水小二年)
- 三等：谷口リエ (水小四年)
- 四等：黒田美和(水小三年) 山下由美子(水小六年) 根来真矢(九小六年) 堀内多恵(水小六年) 門田尚子(水小四年)
- 敬称略
- 一等：増田道正 (川永田)
- 二等：久保悌子(久保)
- 三等：根来芳子(西)
- 四等：根来一恵(西) 久保富裕(久保) 窪野岩男(久保) 根来駒藏(西)
- 三好トミエ(湊浦)
- (小中学生の部)

## 国勢調査の結果

### 前回より300人以上減る

百人から六百人の減となっています。

**人口懸賞**  
増田さんら入賞

国勢調査結果の発表に伴い、八月号の本紙上で募集していた人口懸賞の審査が行われ当選者十八人が決まりました。

応募数百八十八点のうち、ズバリ的中した人はなく、最も近い中から順位を決め、次のかたがたに賞金(賞品)が贈られました。

(一般の部)

める因子をできるだけ抑え

# 民話と伝説

取材先/河内 補作/岡村豊

29

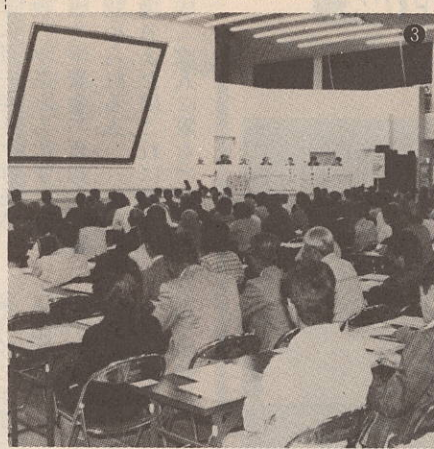
## 源平ゆかりの地

その18

河内のずつと上の方ですが、普通は御天皇様といわれているお宮がありますが、このお宮を八坂神社といまして、八百有余年の昔、源平合戦最後の戦場となった壇ノ浦の戦いで平氏は全滅してしまい、残党が諸国へ落ち延びて行ったという話です。その一隊でしようかな、この八坂神社に安徳天皇をお祭りしたところから、御天皇様というようになったのかも知れません。

このお宮の末社の端に菊池和久を祭った肥後神社があります。宮の森のすぐ近くには神主屋敷跡や祠もあります。この人は、菊池肥後藤原安章、またの名を和久というのです。和久は、宮内の

町見体育館で行われた第2次公開ヒアリング



伊方シンポジウムには町内外から600人参加



自動制御による畑かん事業が始まる大浜

# 85 トップに田

## 行政改革大綱決まる

### 町職員の定数減など17項目

新しい行政課題と増大する財政需要にこたえるため、国や地方公共団体などで行財政の見直しが進められています。本町でも、今年三月に行行政改革推進委員会を設置。団体長など九人のかたがたを委員に委嘱して検討を行ってきましました。このほど検討結果がまとまり、町に答申がありました。町ではこの答申に基づき「伊方町行政改革大綱」を作成。町議会の同意を得て、十一月三十日に公表決定しました。主な内容は次のとおりです。

**当面の措置事項**

- (一) 事務事業の見直し
  - 補助金の見直しを行い統
- (二) 組織・機構の簡素合理化
  - 町長部局の機構を全面的に再編整理し、一・二課減少させ、新しい行政需要に弾力的に対処するため、新機構を創設する(六十一年度)
  - 有寿来小・同保育所の統廃合についてその具体化を図るための委員会を設置する(六十一年度)
- (三) 給与の適正化
  - 職員の特務勤務手当は廃止及び見直しを行う(六十一年度)
- (四) 定員管理の適正化
  - 中央公民館図書室の管理運営の充実を図る(六十一年度)
- (五) 民間委託・O A化等の推進
  - 人事・給与・健康管理システムの電算化を図る(六十一年度)
  - 農事情報・図書管理システムの電算化を図る(六十一年度)
  - その他順次電算化を図る(六十一年～六十三年度)
  - 提案制度を設け、地域振興や事務改善サークル等のサークル活動を導入する(六十一年度)
- (六) 公共施設の管理運営の合理化
  - 公民館結婚式の運営は民間委託を導入し、利用率の向上を図る(六十一年度)
  - 中央公民館図書室の管理運営の充実を図る(六十一年度)

○定年退職者の補充は行わず条約定数五名を減員する(六十三年度)

○民間委託・O A化等の推進

○人事・給与・健康管理システムの電算化を図る(六十一年度)

○農事情報・図書管理システムの電算化を図る(六十一年度)

○その他順次電算化を図る(六十一年～六十三年度)

○提案制度を設け、地域振興や事務改善サークル等のサークル活動を導入する(六十一年度)

○公民館結婚式の運営は民間委託を導入し、利用率の向上を図る(六十一年度)

○中央公民館図書室の管理運営の充実を図る(六十一年度)

## 御天皇様と菊池和久

### 河内

和久は、伊方の八幡神社神主大和藤原安重の子として、安永八年(一七七九)に生まれたのじゃそうです。幼少の折には、家庭で祭典、儀式を習い、大洲の常盤井守貴について神道を学び、伊方の八幡神社神主になったんじやそうです。

文化元年(一八〇四)には



お墓の隅に祭られている石積みのお祠

神祇管領から風折鳥帽子、狩衣着用及び抱笏を許されたそうです。後に、吉田藩の皇学館に学び、また、紀州の本居大平の門に入って国典を修め、古事記も研究したそうです。後には、皇学館の教授になって子弟を教え、文化七年(一八一〇)には、吉田藩主の御

前講義をして褒詞を受けたこともあるそうです。晩年は官命により九州・四国・本州・奥州地方にまで行って国体を説き、古事記に関する事項を調査して上申したそうです。

また、九州の阿蘇大宮司から呼ばれて教授したこともある偉人じやったそうです。

河内の「登尾」という所にこの人のじやという祠がありまして、どんなことか別の土地に祠を祭り直したところが、近所の人らが次々と幸福が悪うていけんので、巫子さんにご祈とうをしてもらった。法がままして、元の祠の跡に骨がまだいぶ残っているのと同じように祭れといわれて、また、祠をそこにも建てて祭りよりますが、それからはええです。嘉永五年(一八五二)に病気で亡くなったそうです。中浦の法通寺過去帳に「松善舎和風哲兆社」と記されているそうです。

伊方の平家谷にも、この六月に神社が新築落成されたので、一度、参拝に来なはたらどうです。

協力者：久保春さん(河内)

## 健康の窓

健康の窓は、皆さんが開けなければなりません。保健センターでは、そのお手伝いをしたいと考えています。

### 成人病予防

病気というのは身体的病気があり、それはお互いに深くからみあっておりますが、ここでは身体的病気の代表である成人病について自分なりに考えてみたいと思います。

脳卒中、心臓病が成人病の代表格ですが、心臓病、脳卒中が血管の病気で、成人病は動脈硬化症によるものということになるのでしようか。

動脈硬化というのは一種の老化現象ですから、加齢とともにある程度進行していき、現在の医学ではやむを得ないんですが、だれしも老化を少しでも延ばして若々しくありたいと思っているはずなんです。

そのためには、老化を早



### 道路照明できる

河内の国道沿い(まるま食堂前=写真上)に照明灯が完成。自転車で通学する高校生に喜ばれています。

この照明灯は、最近国道沿いで自転車が事故が多発しているため町補導会(尾崎洋一会長)らが県に要望していたものです。

九町診療所医師 石川和彦

# 広報の縮刷版

## 2,500円で好評発売中



町では、毎月発行している広報紙の縮刷版を発行。12月2日から1部2,500円(町外は郵送料400円プラス)で販売しています。

希望のかたは、伊方町農協・町見農協・町見農協二見支所・町見漁協・伊予銀行伊方支店・役場及び町見支所で、所定の用紙に住所と氏名を書いて申し出てください。代金と引替えに原本をお渡しします。

申し込み用紙は取り扱いしているそれぞれの機関の窓口にも備え付けてあります。

縮刷版は、伊方町が誕生した直後の昭和30年7月に発行した第1号から、今年4月までに発行した第272号までを1冊の本にまとめたものです。

30年前の麦や米づくりの話題、懐かしい小中学校の校舎、運動会やスポーツ大会の写真や成績など、町の移り変わりが1冊の本に満載されています。

また、この30年間に生まれた人や結婚した人の名前も一見でわかります。家族のどれかの名前があるはず。みんなで探してみてください。

大きさはA4サイズで約850ページ。百科辞典程度の大きさです。

# 無利子の奨学金制度

## 申し込みは一月末までに



に居住している人

【貸付月額】

- 高等学校……一万円
- 高等専門学校……一万五千元
- 県立農業大学校……一万円
- 大学……二万円

【返還方法】

貸付金は無利子。貸付が終了して六ヶ月が経過した後、貸付期間に応じて十五年以内に返還【手続き方法】

町教育委員が定める「町奨学生願書」に必要な事項を記入して、直前に卒業した、または在学している学校長の推薦書を添えて提出してください。

申請用紙は町教育委員会並びに町内の中学校、川之石高校、八幡浜高校、八幡浜工業高校に用意しています。

【提出期限】

昭和六十一年一月末日

【採用候補者の決定】

採用候補者は選考委員会などで決定し、三月末日までに

# 預貯金をするとき

## 本人かの確認書類が必要

一月一日からマル優(特別マル優を含む)や郵便貯金を利用する際は、本人であることの確認ができる書類を金融機関や郵便局の窓口へ提出する必要があります。



この書類には、住民票の写しや保険証、運転免許証などがあります。具体的には、銀行や証券会社などの金融機関に非課税貯蓄申告書などを提出する際、また、郵便局に貯金をする場合(通帳をもって貯金をする場合)には昭和六十一年一月一日以後最初に貯金をする際、それぞれ書類を提出して氏名・生年月日・住所の確認を受けてください。

# 町内の交通事故

12月1日現在

発生件数	65件
(11月)	4件
負傷者数	21人
(11月)	1人

十二月二十一日から一月十日までの二十日間で、年末年始の交通安全県民運動が行われます。今回のスローガンは「無事故でつなごう、ゆく年くる年」です。歩く人も、運転する人もお互いに気を付け交通事故を無くしましょう。縮めて安心シートベルト、やめましょう飲酒・暴走運転。伊方・町見駐在所

# 非課税わく設定済のとき

すでに銀行や証券会社などの金融機関へ提出している非課税貯蓄申告書の非課税わくを利用して、昭和六十一年一月一日以後新たに預入れ(定期預貯金などの書類継続を含む)をするときは、本人であることの確認ができる書類を提示して、改めて非課税貯蓄申告書を提出する必要があります。詳しくは最寄りの金融機関か八幡浜税務署へお尋ねください。

# 【お礼】

- 京都市南区唐桜花園町六一にお住いの安部 香さん(亀浦出身)から一万円。
- 宇和島市丸之内三丁目六一二五にお住いの高村 満高さん(中之浜出身)から一万円。
- 大阪市東区神崎町三三にお住いの米井忠孝さん(大浜出身)から一万円。
- 千葉市大宮台五一〇一三にお住いの兵頭 敬さん(伊方越出身)から二万円。
- それぞれ広報編集費用にご寄付いただきました。紙上から厚くお礼申し上げます。

昭和60年11月1日現在  
世帯数2,610戸(+1戸)

# 人の動き

人口 8,628人 {男4,173人(+0人)}  
{女4,455人(-4人)}

# えんむすび

昭和60年10月1日  
10月31日

# お誕生おめでとう

昭和60年10月1日  
10月31日

# おくやみ

昭和60年10月1日  
10月31日

# 人権コーナー

伊方っ子

ちいさな差別もゆるさない

竹上 百合(二見小五年)  
竹上さんの作品は、昨年度町人権擁護推進協議会が募集した人権作品の標語部門で「町議会議長賞」に選ばれたものです。

# 編集室

十二月になると、テレビや新聞で今年の十大ニュースや〇〇大賞など、一年の総決算ともいえる催しが盛んに行われます。広報「伊方町」でも町のニュースを取り上げてみました。

国内では日航機事故、豊田商事事件、いじめ問題など暗いニュースが目につきました。あるアナウンサーは「まさつといじめ」に振り回され、悪い商法や恐悪犯罪がイッキに表面化。トラ年でもなののに、トラが大暴れしよった……と、ひにくっていました。